

留学先国名 : カナダ

留学先学校名 : Moncton High School

留学期間 : 平成 28 年 1 月 29 日～平成 29 年 1 月 22 日

カナダでの留學生活は、私が想像する以上に刺激的で、価値観や偏見といったものを白紙に戻すような、とても影響力のある 1 年となりました。今回の留學では、自らの語学力の向上と異文化の体験を目標にしつつ、十分な期間を取って体当たりで臨めるよう、あえて 1 年という長期留學の道を選びました。それまで私は日本から出たことがなかったので、不安がないわけではありませんでしたが、目的意識と好奇心を常に感じていることで、何事も臆せず取り組めたと思います。

実際の生活の中では、カナダ人のホストファミリーと暮らしながら、現地の公立高校へ通っていました。初めはもちろん言語の壁にぶつかり、相手が何を言っているのか聞き取りができない。自分が言いたいことを表現できないなど、覚悟はしていたものの苦労は絶えませんでした。慣れというものは言語習得にも多少は存在するのですが、受け身で学べることは限られています。留學前半での自分の姿勢には改善すべきところがあったと思います。カナダの学校では、英語はもとよりほとんどの授業において意見の発言を求められます。技能的な問題に加え、積極性や自発性といった精神面での言語感覚の違いには戸惑う部分も多くありました。

勉強以外について言えば、カナダは多文化、多国籍の国家ということもあり、カナダ人だけでなく、世界各地に原点を持つ人々との交流が持てたことは、今回の留學における最大の利点でした。難民としてカナダに移住してきたシリア人の学生たちと出会ったり、幼少期からカナダで過ごしてきた方々、また同じく留學生としてやってきた南米人や欧米人と会話する機会を持ったりすることができ、カナダという一つの国にしながら、世界規模で見聞を広めることができました。

留學を通して得た成果としては、目的としていた英語能力の習得と、様々な人々との交流により培った新たな物の見方、この二つのほかに、現地の高校生と共に授業を受け、自分が満足できる成績を修めたことで自信がついたことがあります。カナダの高校で取っていた授業の中に、ワールドイシューというクラスがあり、私はそれには特に力を入れていました。というのも、この授業はいわば社会、世界の貧困、紛争、政治や経済、環境問題まで、時事を幅広く学ぶという内容で、私がとても興味のある分野だったからです。世界各地で今起きていることについて、地理や歴史の学習を交えつつ生徒同士で活発に議論するという、日本ではあまり見られない形態の授業の中で、他の生徒たちが堂々と発言したり質問したりという光景には目から鱗が落ちる思いでした。生徒が先生となって発表するプロジェクトでは、私は子ども兵士について 4 5 分に及ぶプレゼンテーションを 1 人で行い、高く評価してもらえたことは大きな自信につながったと思います。

これら経験からの学びは、私のこれからの支えになると確信しています。

留學というのは学生にとって意義のある冒険です。全てが新鮮である異国の地で自己を再構築する素

晴らしい機会であり、留学に少しでも興味のある方ならば、是非あの感動の時間を過ごしてほしいと思います。経済的に負担はかかりますが、この支援金制度なども利用して、どこかの国に行けば得るものは必ずあります。私はカナダでの学校生活の中で、学ぶことが苦でなくなりました。自分で知りたいと思ったことを学習できる喜びをより多くの方々に知って頂きたいです。